

町道整備

大型救急車乗り入れを

乗り入れは厳しい

大方まちづくり課長



問 大方橋川の町道堀谷線は、入り口から約120m入った所に人家がある。家は4戸、人は7人。今の大型の救急車が入って町道終点の庭で回して出たが、立ちトイレのところに仕切板用にコンクリートを打っているところがあり、そのコンクリートに当たるかもしれないので大型の救急車は回り難い。さらに、車を回す所に電柱があったり、石を積んだ所もあり、花畑もあるが、その花畑の土石を取れ

ば車を回すだけの広さを取ることが出来る。この土地は関係者の土地で土地は解決すると思う。また、口から40m入った所に少し狭い所があるが、3mぐらい、おかに側溝ぶたを約3mやれば良い道になる。道路の中ほどは石垣をついていて十分な広さがある。土羽の所は、草を削ってコンクリートを6cmぐらいの厚みで打てば良い道路になると思う。おかは、道路になついている所まで削り取ると、今の大型の救急車は通れているので、後は、車を回す所を造ることができれば救急車の大型が通れるようになると思うが、町の姿勢を問う。

答

松田 大方まちづくり課長

堀谷線は、中山間地域の谷あいを走る延長が約113mの町道。救急車が進入できるように改良をとの質問だが、黒潮消防署の方に問い合わせ

たところ、平成15年までの救急車は進入していたが、大型化されて以降は1度入ったという経過はあるが、現在のところ夜間や雨天等では、路肩が弱いというような事情で、無理をしないという状況にある。そこで、今の対応として

は、救急車は入れないので、担架での対応という報告を受けている。救急車が入れるようにに拡張をとということだが、2回程消防署の署員とも見に行き検討したが、なかなか救急車が入れるようにするには厳しいという状況になった。

町内全戸に救急車が横付けできることは、道路管理者の方としても目標にはすべきとは思いますが、町内には地形的な部分、また集落を構成してきた経過等から救急車が入れない所が多々あり、担架での対応という所が多くある。よって早期の改良は難しいと考えている。



大方橋川堀谷線

